論文執筆の際のメモ書き　by 井澤

自分が論文を書く際に心掛けているところです。例がないので伝わりにくいと思いますが、参考までに。

（3ページ目に、査読の時にチェックされるポイントもあげておきました。これは、某雑誌において、査読者が論文を審査する時にチェックするポイントです。）

○全般的なルール

段落の始めには必ずその段落の内容がわかる文章を1文目にいれる（特に序文や考察）。

（段落の1文目だけを読んでいけば、話の流れがわかるようにする。）

段落には基本的に複数の話をいれない。

○序文

起承転結で書く

・起

投稿する雑誌にもよるが、比較的一般的なトピックスから話をはじめる。

・承

「起」で起こした話をさらに具体的なトピックスへ話を深める。

・転

先行研究の問題点。この研究の価値やオリジナリティーに関わることなので、必ず書く。

・結

この研究の目的（目的が複数ある場合は、特に仮説や焦点などを具体的に書くとよい）

○考察

この研究で得られた知見（Finding）、先行研究との比較（Comparison）、この研究結果からの推測（Speculation）、限界吟味（Limitation）の4つの要素が大きく分けてある。

FindingとSpeculationを同じ段落でまとめて書くと、この研究で得られた知見以上の拡大解釈を行っていると言われる。

FindingとLimitationを同じ段落でまとめて書くと、この研究では何も新たにわかったことはないと言われる。

なので、意識的な書きわけが必要。

複数の知見がある場合は、Findingが複数の段落にわかれることもあり、それぞれに先行研究との比較などが続くことも十分にある。

（自分の場合は、最近は、Findingをはじめの段落にひとまとめにし、その後、各Findingについて、Comparison、Speculationと続けて書くことが多い。）

・この研究で得られた知見（Finding）

この研究の目的が何であったか（「結」で触れたこと）を述べ、それに対応させて、この研究ではどのような結果が得られたかを述べる。

・先行研究との比較（Comparison）

先行研究がない場合は、必ず先行研究はないことを主張する。類似した先行研究がある場合は、この研究の特色を強調するとよい。序文の「転」で述べたことに対応させて書くのがよい。

・この研究結果からの推測（Speculation）

関連性を調べた研究であれば、そのメカニズムを推測する、因果関係を推測する、臨床研究であれば、介入方法について提案する、などがある。多すぎるとよくない。

・限界吟味（Limitation）

この研究の問題点を最後にまとめる。だいたい複数ある。著者の言いたいことを言うだけではなく、きちんとこの研究の問題点や限界について、中立的な立場で論じる。

研究の序文で述べたことに対応させて論を展開させるようにする。

逆に言うと、序文で述べていないことについて、分析を行い、考察を行うことはよくない。

REFEREE'S COMMENTS TO CHIEF EDITOR

Check Points

1. Is this a new and original contribution?

Yes [ ]

2. Is it justified to publish all the results?

Yes [ ]

3. Is the title suitable?

Yes [ ]

4. Is the abstract clearly written and understandable to the non-specialist?

Yes [ ]

5. Are the methods sound and adequately described?

Yes [ ]

6. Are the conclusions and interpretations sound and justified by data?

Yes [ ]

7. Are points of interpretation clearly separated from the results?

Yes [ ]

8. The language or style of the article needs:

[ ] No correction

9. Are the references all necessary?

Yes [ ]

10. Do the legends fully explain the figures?

Yes [ ]